

つながりを大切に

新年がスタートしました。各地でゆるやかにつながって、「要求いっぱい、会員大募集」と、楽しい班会やしんぶんタイムを力に豊かな班活動が広がっています。

〈1面から〉

石川

ここでも生き続ける

野萱草班

投稿を見て入会が

地震の起きた年の7



支援物資を保育園に届けた

月、市内に住む椿原みや子さんが、「新婦人へ」と呼びかけるSNSの投稿を見て中央本部へ入会を申し込んだ。これを機に、これからは珠洲に通い続ける、と決意した近松さん。同級生やしんぶん読者に「新婦人に入ってくださいと呼びかけ、4人が入会しました。

のかんぞう、動かんぞう

公費解体がすすみ、更地の広がる高屋町。珠洲市では約5600世帯のうち全壊が約1700戸、半壊以上が約3700戸と、住宅被害が多数発生。人口は地震発生後から15%以上減少し、推計人口は9952人(25年8月1日)と、初めて1万人を割り込みました。多くの被災者が仮設住宅などでの生活を余儀なくされ、恒久的

な住まいの確保が大きな課題です。

珠洲は1970年代に高屋地区と寺家地区が原発建設の予定地になり、住民の30年にわたるねばり強い反対運動で白紙撤回させた歴史があります。

ここに仲間がいる

班会のおしゃべりは止むことがありません。被災後の生活環境の変化で困っている人



いまだ仮設住宅で暮らす人が多い

の相談先や、行政の助金申請の複雑さのとも、「ものすごい負ねんわ。こんな面倒な人は本心折るわ。国も予算置いきながら使われんで残ったら何にまわしるの」と憤る井上さんに、「それやて」と上がりました。押さえつけられ生きるの嫌だと理不尽なことにはを合わせて跳ね返ってきた珠洲のたち。この地で縁がなり、新婦人であり、これからもここに生き続ようという姿がありました。

岩手

楽しい班会に誘って 会員が2倍に

盛岡支部 野いちご班

班は会員10人と、2年前に比べ2倍になっています。50代〜80代の5人で、長い間、定期的に班会を開くことが難しい状況でした。

長年活動を中心に担ってきた先輩会員が突然天国に旅立ち、おんぶに抱っこ状態だった班のメンバーはショックで立ち直れませんでした。残された全会員が集まり先輩のお墓参りをし、その後、班

会を開きました。「このままではいけないよね」「みんなで抱おう」と話し、みんなが参加できるよう日程を調整し、3カ月に1回、班

会を開くことを決めました。班会のない間も会員をつなぐを切らさないようにと回覧ノート(右下)を毎月回し、



班の回覧ノート

新婦人しんぶんのことや近況報告、行事の連絡、美と平和活動など、自由に書き込み、近くの仲間と渡します。交流の場でもある回覧ノートが待ち遠しくて、書きたいことができる」と「ノートはいまどこ?」と探してしまっほ

「会員が少ないのさみしい」「要求実のためにも新婦人大くたね」と仲間づくもみんなで相談。読を中心に、声かけは当を決め、班会に必ずゲストを誘って、毎高会員が増えていきます12月の班会にもゲストが3人参加し、読者1人入会! 高市反政権で悪政が強まる



「足が弱った」という友人も誘ってバラ園に(6月)

班会では悩みも出され、地域や世代ごとの問題も見えてきました。特にバスの路線や

「会員が少ないのさみしい」「要求実のためにも新婦人大くたね」と仲間づくもみんなで相談。読を中心に、声かけは当を決め、班会に必ずゲストを誘って、毎高会員が増えていきます12月の班会にもゲストが3人参加し、読者1人入会! 高市反政権で悪政が強まる

ふやし、もつともつ班を大きくしたいといます。私たちには力がある、行動あるみです。



大阪・富田林市 古庄清美



奈良・山添村 藤森妙子(75)



京都・精華町 上原良子



札幌市 中村尚子(50)